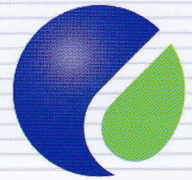




〈校章〉

# 尾 鈴 山

題字 元文部大臣 瀬戸山三男氏



〈シンボルマーク〉

【October 2018】 平成30年10月30日



## 南九州大学同窓会の さらなる結束と躍進を

南九州大学同窓会第12代会長  
後藤 克信 (45L)

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍の事と共に、日頃より同窓会活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。先ず初めに西日本豪雨、台風21号および北海道(胆振東部)地震の被害にあわれました皆様にはこの場をお借りしまして心よりお見舞い申し上げます。

さて、南九州大学の高鍋キャンパスを平成29年9月に諸事情により高鍋町に売却(キャンノ工場になる)されました。高鍋キャンパス卒業生にとりまして寂しい所であります。この事を前向きに捉えて、大学の発展に役立つ資金になればと考えております。

平成29年11月に南九州大学創立50周年の節目を迎え同窓会として

宮崎・都城キャンパスへの大学50周年記念看板設置、新聞広告掲載、寄付等をさせていただきました。

南九州大学は、宮崎キャンパスに健康栄養学部(管理栄養学科・食品開発学科)、都城キャンパスに環境園芸学部(環境園芸学科)、人間発達学部(子ども教育学科)があり、多くの卒業生が巣立っています。同窓会では全国の仲間との連携が深められないか模索しております。宮崎の本部役員会では、広報活動の活性化強化、在学生との交流や支援活動の推進等に取り組んでいます。また同窓会ホームページの充実を計り、SNSも活用しながら、情報活動、各県卒業生からの情報提供の場としての利用も考えております。加えて役員組織の若返り等にも取り組んでいます。通常総会で頂いた意見にも対処しつつ今後も積極的に活動していきます。

大学では宮崎キャンパスに学生会館を新築中であり、都城キャンパスに第二体育館の整備を計画しています。これらの施設の完成後は、学生の方々により充実したキャンパスライフを過ごせるようになることと考えております。

最後になりましたが、尾鈴山の発刊に当たり大学、関係各位、会員のご協力を心より感謝し、皆々様の健勝ご多幸をお祈り申し上げます。



## ご挨拶

南九州大学学長  
寺原 典彦

初秋の候、南九州大学同窓会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。いつも南九州大学の後輩を温かい目で見守り、ご激励をいただきますことに深謝致します。また、本学の教学・経営の運営について、日頃よりご理解とご協力をいただき、お礼申し上げます。更に、昨年度は南九大創立50周年の節目の年で、記念行事を行いました際には、立派なキャンペーン看板を両キャンパスに設置いただいたばかりでなく、寄付金のご支援もいただきました。改めまして、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度から51年目が新たにスタートしております。現在は、世界的にグローバル化、知識基盤社会、第4次産業革命、テクノロジー4.0の中にあり、近い将来100年ライフや超スマート社会(Society 5.0)が到来し、その潮流のなかで、価値観や職業の種類も激変してきていることはご存知のとおりです。また、日本では少子高齢化、地域の過疎化、都市部への進学志向、大学のユニバーサル化、農学系4年制大学の増加など、本学のような地域の小規模大学にとっては厳しい状況に移行しつつあります。

このような社会情勢を踏まえ、大学も変わる必要があります。繰り返しになりますが、南九大が将来にわたって安定的に存続・発展していくためには、迅速かつ一体的に改革していく必要があります。そのため、半世紀の間に卒業生(同窓生)によって築かれてきた南九大の校風と気質を、本学の良い伝統や特徴として活かしながら、発展的に「MKUブランド」を確立することが不可欠だと考えています。そして、「食・緑・人の専門職業人を育成し、地方創生の担い手を輩出する。」という基本理念をもとに、各学部・学科の教学改革を自己点検・評価を行いながらPDCAサイクルに乗せて継続的に進め、学部・学科それぞれの魅力を引き出し、学生を引きつけ、安心して学べる大学を目指す必要があります。

環境園芸学科は設立当初から50年間続いているユニークな学科であり、本学の顔＝「南九大といえば園芸・造園の大学」として定着しています。特にOB教員の支援を受け、全国から学生を集めてきましたが、より積極的にOB教員や卒業生(同窓生)の力を借りる必要があると思います。更に、普通科生・県内生の募集に力を入れ、中身を総花的ではなく園芸学と造園学に絞り、学科と連動した付属フィールドセンター機能をフルに活用した実学教育を進めることが重要です。

また歴史の浅い子ども教育学科は附属センターや研究所をこれまで以上に有効活用し、「人の育ち、地域の育ち」を踏まえた「南九大方式」の地域への存在感の浸透を図り、より一層「連携学校園方式」を活かした実習協力校との結びつきを深め、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の育成と合格率の向上を目指すとともに、高校訪問の強化や学科運営の徹底した再建が求められます。両学科は都市部にあるメリットを活かした連携を一層深め、学生募集や学生生活環境作りを支援してもらい、地元就職につなげることが大事であると思います。

宮崎キャンパスの管理栄養学科は管理栄養士の国家資格が取れる県内唯一の学科であり、しばらくは、需要があると思われるので、学生募集・教育・研究・地域貢献のいずれも、学科教員の一体感を更に高めて、現状の方向性で進めば良いと思われれます。

食品開発科学科は、学科の教育・研究の目的の浸透や学生の安定的確保で漸く成果が出つつあります。特段の国家資格で守られているわけではなく、継続的に社会のニーズへのいち早い対応が求められる学科であり、これからは県内唯一のHACCPの拠点としての整備や長期インターンシップができる柔軟なカリキュラムの整備が必要と考えられます。両学科とも地の利があることと、フードビジネスや6次産業化などの社会的傾向が追い風になっていると思われれます。

本学をこれまで以上に評価される大学にしていけるために、以上のような各学科の目標に向かい、教職員および学生やステークホルダーと協働して取り組んでいきたいと考えております。今後とも同窓会の皆様のより一層のご理解とご支援・ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。